

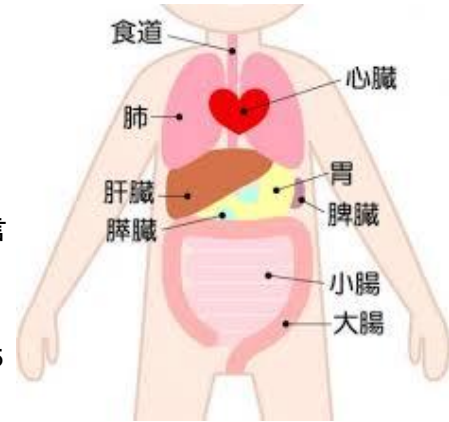
# 「心臓がん」…って聞いたことありますか？

人が集まると病気の話(がん・高血圧・糖尿・前立腺…)が多いでね……

Aさんが大腸がんの手術をした、Bさんが前立腺がんの検査を受けた。

俳優の黒沢年雄さんは過去8回もがん手術をした…等の情報が巷に氾濫しています。胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、前立腺がんなどはよく耳にしますが、「心臓がん」って聞いたことありますか？

駒沢にある国立医療センターの先生にお聞きしましたら、「心臓にがんはできない」と言っていました。人間の臓器の中で温度の低い臓器にはがん細胞がとりつくが、心臓のように温度が高く、活発に動いている臓器にはがん細胞繁殖しない…と言っていました。心臓はがん細胞にとって居心地の良い体内環境でないみたいです。心臓は四六時中休みなく動き、発熱量が多いところです。心臓の重量は体重の約0.5%程度しかありませんが、体全体の体熱の約11%も熱を作っているそうです。



ガンになりやすい臓器は、胃や大腸、食道、子宮、卵巣、肺といった管腔臓器です。これは細胞が周囲にしか存在せず中空になっているので、臓器全体としては温度が低い。そのうえ外界と通じているので、さらに温度が下がるのです。

外気温のほうが体内より常に低いからです。

また、乳房にもガンがしやすい。乳房は体から突き出ているので体温が低いからなのでしょう。特に、乳房が大きい人ほどガンにかかりやすいことがわかっています。

がんは冷えの病気、がんは熱に弱いのです。体の冷えは万病のもと！人間の体温の40%は筋肉から出ています。体温が1度上がると免疫力は5~6倍になります。がん細胞は体温が35℃の低い体温の時に最も繁殖し、39.3℃以上になると死滅する性質があります。2016年に新たにがんと診断される人は初めて100万人を突破したといわれ、がんの死者数はうなぎ登りに増え、2016年には37万人を超えました。なぜ、日本ではガンによる死者が多いのか？ 答えは日本人の体温が年々低下しているからなのです。身体が冷えると、血液の流れが悪くなり、リンパ球が体内で十分な活躍ができなくなり、免疫力がさがり、がんはじめ色々な病気にかかりやすくなります。



pixta.jp - 22055668

## ■癌細胞は毎日増殖する？

実は通常の細胞でない癌細胞の前段階の細胞は毎日、約3000~5000個も作られています。その後、癌細胞が活性化されるような癌細胞にとって居心地の良い体内環境であれば、この細胞はどんどんと活性化され、癌細胞が増殖します。

しかし、この細胞を除去してくれるのが、免疫細胞です！！免疫細胞と、癌細胞は簡単に言うと正反対の状況を好みます。それでは、癌細胞を死滅させるにはどうしたら良いでしょうか？

## ■癌細胞を死滅させる方法とは？

色々な情報がでていますが、一番簡単に実践できる事は、「身体を温める事」です。体温を1度上げるだけで、免疫力は5~6倍になるという有名な言葉がありますが、癌細胞の敵は、免疫細胞です。

癌細胞を死滅させる温熱実験は沢山行われています。温熱実験によって、何度で死滅するかは、色んな説がでていますが、有効なのは、「39.6度」と「42度」です。つまり、39度で悪性細胞は衰え始め、42度で死滅するという事です。

## ■日本人のお風呂習慣が？癌細胞を殺すヒントとなった？

「身体を温めると癌細胞が死ぬ」という研究で話題になっているのは10年位前からですが、実は、この方法は、第二次世界大戦後すぐに実験されて、明らかになっている事でした。その研究のヒントとなったのは、日本人の熱い風呂に入る習慣からでした。

第二次世界大戦前に、フランスの医師パスツール、ジョリエが実験し、その後、ドイツのアンリ・ランペール教授が2次大戦中に自分の腸チフスや兵士達の腸チフスを熱いお風呂(43度)に入らせる事で治してきました。彼は、熱いお風呂に入る習慣のある日本人の癌の発症率が他国と比較し20倍も低い事に注目し、研究しました。

その結果、ガン患者を36度のお風呂に入浴させ、徐々に温度を上げ、42度まで上げ、最終的に、体温が39度に上げると悪性細胞は衰えはじめ、42度で死滅する事を発見しました。